

2007年1月17日発行

ぱんす

四季の会・ユーザーズ・サービス

219号

発行人 浅沼 邦夫

拝啓 寒中の候となり、先生におかれましては益々御活躍のことと存じます。

今日1月17日、阪神大震災12年目、犠牲者の13回忌、心からお祈り申し上げます。今年**は亥年**、亥は「核・骸・・・」となり中心のようです。不思議と大災害は亥年に集中する傾向があり、いい意味でも悪い意味でも、「激震」への備えが大切になりそうです。20世紀の最後の亥年、今から12年前、1995年1月17日、早朝「**阪神・淡路大震災**」が発生し、犠牲者は約6400人、経済被害は10兆円強という未曾有の災害となったのです。

同じ年の3月、東京では「地下鉄サリン事件」が発生、地下鉄内で同時多発的テロという、これまで想定もされなかった異常な事件が起こった。「安全神話」が崩壊したといわれています。

歴史をさかのぼれば、1923年の「**関東大震災**」、1947年「**キャサリン台風**」、1959年「**伊勢湾台風**」も1983年の「**三宅島大噴火**」。不思議と大災害は亥年に集中する傾向がありそうです。東京から大阪までの東海ベルトは今でも、今日でも、発生する危険があるそうです。私たちは心して毎日生きていかなければならないようです。

悪魔のささやき!! ブレない会計、ブレない経営

「ツケの大きさはだいたい、予兆や事実を無視したり、隠したりして、得をしたつもりになっている金額の300倍くらいになる」。(1月15日 読売新聞よみうり寸評)

「失敗を隠そうというときは、発覚したら、多大なツケを払わなければならないことを覚悟しておかなければならない」ということ。失敗の法則(畑村洋太郎)でも基本的

なことの一つだ。

大手菓子メーカー「不二家」はシュークリームに消費期限切れの牛乳を使ったことなど一連の不祥事を報道で発覚するまで公表しなかった。「発覚すれば雪印乳業の二の舞になる」と思ったようだ。

「1月16日読売新聞」によると、《3000万詐欺容疑 会計士逮捕》IT事業のコンサルタント会社を設立すると偽り、顧客から出資金名目で3000万円をだまし取ったとして、警視庁捜査2課は15日、東京都文京区で会計事務所を開いていた公認会計士池田充夫容疑者(51)を詐欺容疑で逮捕した。池田容疑者は2001年1月から02年3月にかけて、顧客や会計士仲間ら約30人から出資金名目で計約2億2000万円をだまし取ったとみられ、同課で裏づけ捜査を進めている。

調べによると、池田容疑者は00年2月、顧客だった豊島区内の自営業男性(当時66歳)に対し、「新会社を設立して、IT事業のコンサルタント業務を始める。上場するような企業になるので、出資金は2倍になって戻る」と偽り、3000万円をだまし取った疑い。**本業をないがしろにして、証券、金融等の甘味に手をだした？」**

《詐欺罪で大阪の税理士が逮捕》「2006年11月25日税理士新聞」によると、虚偽の決算報告書などを銀行に提出し、中小企業向けビジネスローンの融資金5千万円を詐取したとして、大阪府警捜査2課はさきごろ、電気工事会社「ケイ・エム・ティー」の役員と、その顧問税理士らを詐欺容疑で逮捕した。調べによると、同税理士らは平成15年11~12月、大阪・枚方市内の大手銀行の支店に、ケイ・エム・エーの預金残高や売掛金などを改ざんした決算書や確定申告書を提出。中小企業向け無担保融資の「ビジネスローン」に申し込み、現金5千万円を借り入れて詐取した疑い。ケイ・エム・エーは400万円を返済したが、大半が焦げついていた。大手都市銀行では、ケイ・エム・エーが**確定申告の際に税務署へ提出した決算報告書と、融資の際に受け取った書類の内容が異なっていたため、府警に告訴していた。**

この事件は、意図的な「粉飾」に税理士が積極的にかかわっていたことが「詐欺罪」としての逮捕された要因だが、顧問先の粉飾に心ならずも関係してしまうケースも少なくない。とくに、顧問先の「懐」を一番知っている立場にいるため、無碍な態度が取れないのも税理士の難しい立場がある。

何かに叛いて起きるのです。内部告発(談合・決算・不二家)もそうです。まあまあ・・・という甘い体質がそうされていくのです。隠ぺいの後に発覚すれば、ツケはさらに大きくなるという失敗学の法則を甘く見た。

過ちてはすなわち改むるにはばかりのことなかれ はだれもが知っている。が、自分のこととなると、とかくためらい、ぐずぐずしがちなものらしい。不二家は雪印の二の舞をおそれながら二の舞についての認識が甘かったということだ。「これくらい隠

しても大丈夫」は悪魔のささやきだ。それに耳を貸さぬこと。失敗学の法則もそれを教えているようです。

決算診断は 会計事務所の家庭菜園です

会計事務所にとって「人脈(お客様)は大きな財産」です。所長先生の現在を、成功またはその過程であっても、数え切れない苦労と、地道な努力の積み重ねがあるものと思います。さらに、世の中には、自分一人で、どうしてもできないこともあります。そういう時に、頼りになるのが人脈です。人間関係です。

他人が、所長先生をみる場合、先生だけでなく、その背景にいる人脈まで含めて評価を下すものです。そういう意味で、人脈は大きな財産です。私たちは人間関係を築きながら生きているものです。人脈とは「会計事務所のお客様」です。「いいお客様」を多く持つこと。いい社員となり、いい事務所に変わっていくものです。**お客様は我が会計事務所を磨いてくれるものです。**

会計事務所が一番大事なことは「**所長先生**」です。「5Sと3C」が大切です。とくに「3C」「コミュニケーション・コラボレーション・コンプライアンス」のことで。お客様を守り、攻める事務所をつくるのも、所長先生次第です。人にいきいき、経営に体力です。

そこで、「人は感情から老化する」和田秀樹著によると、「感情が老化しやすい職業」のことがある。若い頃から「先生」「先生」と呼ばれていると、老化しやすいと書かれています。慣れ、慣れになった数字の世界だけに入っていたら、正に老化になってしまうようです。パソコン会計で効率性だけに終わっていたら、感性が、鈍くなってしまいます。人間の老化は「知力」「体力」よりも「感情」から始まるのです。

そこで、「読み・書き・計算」を反復練習する。また、仕事の中で訓練する。記憶力を直接鍛えるトレーニングになり、前頭葉を刺激するのです。**家庭菜園は、一石四鳥の効果があり、感情の老化予防に最適である。天気や土の具合や、常に変化し続ける自然との闘い、マンネリがなくなる・・・といわれています。**

そこで、『**決算診断は、会計事務所の家庭菜園**』です。お客様とのコミュニケーションです。数字を数値に変えると、会社の全てが見えてくる。創造性の発揮です。決算診断は、社長とのコミュニケーションです。決算書が「**決算診断提案書**」になると、数字が生き生きする。経営内容が湧き上がってくるのです。社長が決算時にしっかりと「自分と向かい合って」みる機会を作ります。「**決算診断提案書**」のイメージが湧かない先生には、是非プロスにご連絡下さい。言葉だけでなく、実践資料をお送りさせていただきます。是非、ご連絡いただければ、今の状況をお送りさせていただきます。